

令和元年度病害虫発生予察注意報第3号

令和元年9月11日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

現在、トビイロウンカが平年より多く発生し、一部ほ場では坪枯れが発生しています。特に5月下旬までに移植した中生～晩生品種栽培ほ場では、今後、トビイロウンカ幼虫の急増及び坪枯れの発生が懸念されますので、適切な防除対策を行ってください。

病害虫名：トビイロウンカ

- 1 対象作物 イネ
- 2 発生地域 県下全域
(特に5月下旬までに移植した中生～晩生品種栽培ほ場)
- 3 発生量 多い
- 4 注意報発令の根拠
 - (1) 9月6～8日の巡回調査(ウンカ類調査定点および巡回調査定点)の結果、発生ほ場率は45.6%(平年:2.9%)と平年より高い。また、株あたりのはらい落とし虫数は3.5頭/株であり、8月下旬調査時より急増している。
 - (2) ほ場では成虫及び若～中齢幼虫が発生しており、増殖率の高い短翅成虫も確認されている。
 - (3) 現在、5月下旬までに移植した一部ほ場でトビイロウンカによる坪枯れが確認されている。また、坪枯れが発生したほ場の周辺では、要防除水準(成幼虫数10頭/株)を超えているほ場も確認されている。
 - (4) 9月以降、平年より気温が高い状態が続いており、さらに2週間気温予報も高いと予想されていることから、本種の増殖および被害の発生を助長する気象条件が継続する。
- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) トビイロウンカの発生は地域間差及びほ場間差が大きいですが、特に5月下旬までに移植した中生～晩生品種栽培ほ場では、今後、トビイロウンカの急増が懸念されるので、注意が必要である。
 - (2) 要防除水準(成幼虫数10頭/株)を超えた場合もしくは坪枯れを確認した場合は、粉剤、水和剤などで直ちに防除を行う。なお、散布の際、本種の生息場所である株元に農薬が十分かかるようにする。

- (3) 収穫期が近いので、防除にあたっては農薬の収穫前日数及び総使用回数に注意する。
- (4) 収穫期が迫り、防除が出来ない場合は収穫適期の範囲内で早めに収穫する。
- (5) 必要以上に早い落水は、坪枯れの発生を助長するので、適期落水に努める。

表1 トビイロウンカの主な防除薬剤

剤型	薬剤名	収穫前日数
粉剤	トレボン粉剤DL	7日前
	MR. ジョーカー粉剤DL	7日前
	エルサンバッサ粉剤20DL	7日前
	スタークル粉剤DL	7日前
	アルバリン粉剤DL	7日前
水和剤等	トレボン乳剤	14日前
	MR. ジョーカーEW	14日前
	スタークル顆粒水溶剤	7日前
	アルバリン顆粒水溶剤	7日前



図1 トビイロウンカによる坪枯れ



図2 トビイロウンカの成虫及び幼虫



図3 トビイロウンカが多発したイネ株の株元の様子